

NEWSLETTER

No.87

10 May 2024

・教員の研究室と電話番号・メールアドレス	・	1
・活躍する卒業生 (13)	・	2
・地理学教室が発信する各種情報の QR コード	・	4
・2024 年度教員在室時間表	・	5

【 教員の研究室と電話番号・メールアドレス 】

	研究室の場所	研究室電話番号	電子メールアドレス
内 田	世田谷校舎 10 号館 4F 1025 研究室	03-5481-5291	uchida@kokushikan.ac.jp
桐 越	世田谷校舎 10 号館 2F 1001 研究室	03-5481-5278	kirikoshi@kokushikan.ac.jp
岡 島	世田谷校舎 10 号館 2F 1002 研究室	03-5481-3245	okajima@kokushikan.ac.jp
小 山	世田谷校舎 10 号館 2F 1003 研究室	03-5481-5247	takushi.k@kokushikan.ac.jp
佐々木	世田谷校舎 10 号館 2F 1004 研究室	03-5481-3246	akihikos@kokushikan.ac.jp
磯 谷	梅ヶ丘校舎 34 号館 8F 824 研究室	03-5451-8154	isogai@kokushikan.ac.jp
加 藤	梅ヶ丘校舎 34 号館 9F 904 研究室	03-5451-8164	k2kato@kokushikan.ac.jp

※教員の大学における在室予定の時間等は、5 ページの教員在室時間表を参照してください。
オフィスアワーは、基本的に先生が研究室にて、学生の質問等に答える時間です。

※オフィスアワー以外の面会・相談なども在室中に短い時間で済む用事であれば、大抵の先生は急用がない限りは応えてくれます。ただし、基本的には相談や面接等は、事前にアポイントメント (Appointment ; アポ) をとってからするようにしてください。オフィスアワーであっても、出張等で不在の場合や、他の相談者などがあるため時間が割けない場合もありますので、事前にアポを取る方がお互いに好都合です。大学生としての自覚をもった行動を心掛けましょう。

※したがって、教員や非常勤講師の先生への電話は、先生からの指示がない限り控えてください。

※メールを活用しましょう。多くの先生が電話よりもメールでのアポの方が好都合です。ただし、教員のメールアドレスは携帯電話のものではありませんし、LINE 等とも違いますので、すぐ返信がくるとは限りません。余裕をもった連絡を心掛けてください。アポの際には、メールの標題に、学籍番号・氏名を明記してください。先生によっては、標題に学籍番号・名前がないとメールを消してしまう場合があります (迷惑メール・ウィルスメール対策のため)。用件が必ずしも標題になくても大丈夫です。「こんにちは」といった標題のメールは即刻消される場合があるので注意してください。



写真3. 高山のハイマツ群落の動態の調査の様子
 (青森県青森市・八甲田山)
 *写っているのは、横浜国立大学の大学院生



写真4. 天然ゼンマイ（山菜）の個体群調査の様子
 (福島県只見町・木ノ根沢流域)
 *横浜国立大学の大学院生の他に、調査助手として地理・環境専攻OBの小俣寛国先生（右から2人目）にも同行してもらいました。



写真5. 太平洋型ブナ林調査の様子(山梨県小菅村・松姫峠)
 *写っているのは、同行した磯谷先生（左）と大澤先生（右：自然保護助成基金・理事長）



写真6. 希少な常緑針葉樹ハリモミの分布調査の様子
 (山梨県小菅村・松姫峠)
 *写っているのは、同行した佐々木先生

【学部時代の私】

私は在学時、入学からしばらくは、自然や生き物には興味がありましたが、勉学にはそれほど熱心ではなかったと思います。学部時代の前半は、大学院進学への漠然とした希望は持っていましたが、深夜のアルバイトや友人たちとの遊びに明け暮れており、しばしば授業を休みがちで、出席数が足りず、単位もギリギリの状態でした。その当時、私はまだ心から興味を持てる分野を見つけられていなかったのだと思います。しかし、大きな変化があったのは、3年生からのゼミ配属後です。特に植生地理学に関する興味が芽生えてからは、勉強の量が劇的に増えました。また、「地理実習室の存在」と「ゼミで行う野外実習と卒業研究」、そして「個性豊かな同級生の存在」が私に多大な影響を与えました。当時の指導教員であった磯谷先生や数々のご指導を頂いた加藤先生、長谷川先生（現国土舘史資料室長）は、私の学部時代の詳細をよく知っていますので、機会があればぜひ話を聞いてみてください。きっと面白おかしく話してくれるでしょう（笑）。

この場を借りて、地理・環境コースの学生たちに向けて、皆さんの卒業時に「地理・環境コースはとても楽しかった、有意義だった」と言えるようなアドバイスをしたいと思います。もし、今、あなたが「地理・環境コースにおける学生生活が楽しくない」、「野外実習や卒論がきつそうで不安だ」「単位をたくさん落としていてこの先の希望が持てない」・・・などと思っているなら、是非とも参考にしてみてください。

【アドバイス1：地理実習室を存分に使うべし】

皆さんご存じの通り、地理・環境コースでは、学生が自由に利用できる地理実習室が設置されています。その近くにはフレンドリーかつ、良い意味で個性的な先生たちが多くいて、実習室には膨大な資料や書籍、そして多数のPCが備えられています。これらのPCには、専門的で高額なアプリケーションがインストー

ルされ、フィールドワーク時には高価な機材も比較的簡単に使えるようになっていきます。私は、3年生の春から、当時の同級生数名でこの実習室にどっぷりとハマってしまい、授業やゼミがない日であっても、朝から夜まで入り浸って「何か」をするようになりました。何かとは、レポートや課題をやるだけではなく、興味のある本を読み漁ったり、GISを勉強したり、地図を眺めたり、友人同士で世間話をしたり・・・と多岐にわたります。その結果、先生や先輩たちとも頻繁にコミュニケーションを取るようになり、ゼミの枠を超えて食事に行ったり、調査に誘われたりすることもありました。このような経験が大学生活を非常に楽しくさせ、地理実習室を訪れない日は落ち着かないほどでした。

地理・環境コースは、このような素晴らしい設備を自由に利用できるのが特徴です。卒業後に外に出ると、こんな恵まれた環境は日本全国どこを探してもなかなか見つかりません。在学中の皆さんには、ぜひこの設備を思う存分活用して勉強してほしいと思います。高い学費を支払っている以上、これらのリソースを積極的に使わないのは非常にもったいないですよ。

【アドバイス2：何か1つ、心から興味を持って、それに本気で取り組むべし】

地理学野外実習やゼミは、知識も経験も浅い学生を未知のフィールドに投げ出し、多くの課題を課し、それらを短時間でレポートや論文にまとめさせ、発表させるという、いわゆる「スパルタ教育」とも言えます（これは個人的見解であり、異論は認めます・・・笑）。学生から見れば、単位の取得や卒業のために耐える厳しい訓練かもしれませんが、実際はこれが、社会で働くために不可欠なスキルを育成する最高のカリキュラムです。企画・計画を立てる力、現地で得られた情報の収集と分析力、資料や文献の読解及び要約能力、文章表現力など、社会で高度な業務をこなす際に必要な多くのスキルがここで養成されます。これらのスキルを学生時代から鍛え、卒業までに習得することで、社会に出た時に即戦力となり、さらにこれらの能力は一生役立つでしょう。これを聞いて、やる気が湧いてきませんか？ 私自身も、ゼミや野外実習で養われたフィールドワークやデータ分析の能力を、様々な場面で評価してもらっています。

この「スパルタ教育(?)」を乗り切るための個人的なアドバイスとしては、次の2点です。「自分の興味のある分野をたった1つでよいので見つけること」、「その分野においては少なくとも地理・環境コース内で誰にも負けないレベルまで知識を深めること」。これらを実践すれば、厳しい実習や卒論のプレッシャーも恐くありませんし、興味のある分野に取り組むことで、モチベーションも上がり、学習効率も高まるでしょう。

【アドバイス3：一生モノの友達を作るべし】

地理・環境コースでは、卒業研究や野外実習の他にも、国士舘大学地理学会や様々な巡検など、多くのイベントが開催されています。これらの活動に積極的に参加することで、同じ興味を持つ友人が自然とできます。正直なところ、野外実習や卒業研究はきついノルマのように感じることも多いですが、友人と協力し合いながら取り組むことで、その負担も楽しみながら乗り越えることができるでしょう。苦楽を共にすることで、絆は自然と深まります。私自身も卒業してから長い時間が経過しましたが、大学時代にできた友人たちとは今でも交流があります。一緒に食事をしたり、近況を報告しあったり、旅行に行ったり、時には野外調査で協力し合ったりしています(写真4)。みなさんも、大学生活を通じて一生の友人を作ってください。

【地理学教室が発信する各種情報のQRコード】

地理学教室ではニューズレターの他に、ホームページ、フェイスブック、インスタグラムでも情報を発信しています。ぜひご覧ください。



ホームページのQRコード



フェイスブックのQRコード



インスタのQRコード

【 2024 年度 教員在室時間表 】

曜日	時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
	時間	9:00-10:30	10:45-12:15		12:55-14:25	14:40-16:10	16:25-17:55	18:10-19:40
月	岡島							
	磯谷							
	加藤							
	佐々木							
	小山							
	桐越					秋のみ	秋のみ	
火	内田						春のみ	
	岡島						春のみ	
	磯谷		秋のみ				春のみ	
	加藤							
	佐々木					春のみ		
	小山							
水	岡島							
	磯谷						春のみ	
	加藤							
	佐々木						秋のみ	
	小山						春のみ	
	桐越		秋のみ					
木	内田	春のみ				秋のみ		
	磯谷							
	加藤							
	佐々木					春のみ		
	小山							
	桐越							
金	内田							
	岡島							
	磯谷							
	加藤							
	佐々木							
	小山							
土	内田							

凡例 授業 オフィスアワー 在室している場合が多い その他

※春のみ：春期のみ講義。 ※秋のみ：秋期のみ講義。
 ※金曜日は文学部関係の会議が集中する日です。会議のある先生は大学にいますが、ほとんど会えない場合もありますので、注意してください。第3または第4金曜日には教室会議（12:00～）・教授会（13:30～）があり、教員全員が会議に出るので、その日の午後はほぼ会うことができません
 ※加藤先生：月曜日は夕方に他大学で授業あり（春期のみ；秋期は4限以降，在室の場合が多い）。水曜日は午前中他大学で授業あり（秋期のみ；春期は2限から在室の場合が多い）。